



高崎高校同窓会報

2006

第40号

平成18年11月30日

特集 / HS 海外派遣研修



GRAPH
FILE



マラソン大会(平成18年11月8日)



高高同窓会報 No.40 目次

あいさつ

ごあいさつ 同窓会会長 原 浩一郎 3

ごあいさつ 学校長 栗原 健 4

校歌 同窓会副会長 串田 紀之 4

論壇 21世紀のテレビと政治 57期 関根 建男 5

特別寄稿 忘れ得ぬことも 47期 天田 允 6

柔道場から熱帯林・サンゴ礁の海へ 67期 鳥羽 通久 7

七七会と共に歩んで 77期 松本 基志 8

高高に自信の〇！ 87期 鳥谷越 明 9

特集 H S 海外研修報告 10

特別寄稿 卒業50年を迎えて 55期 堀川とんこう 12

市内の下宿を転々 同窓会だより 86期 山本 好一 13

同窓会だより 高崎高校通信制同窓会 79期 清水 英寿 14

同窓会本部から 卒業生の作品紹介(21) 15

● 翠樹文庫 15

● 表彰・叙勲者紹介 15

母校だより 各部の活躍・活動 16・17

第60回定期戦 18

最近の進学状況 19

人事異動 19

同窓会会計報告、新年総会案内、ゴルフコンペ報告、編集後記 20



いよいよ

同窓会会長 原 浩一郎

冬の訪れとともに冴え渡る空気の中、母校高崎高校の校庭からは、「秀麗榛名」の峰が、その後線を一際際立たせた姿が望まれます。

横田前会長の後を受け私が本職を拝命してから、早いもので一年が経とうとしております。この間、多くの同窓諸兄より、甚大なるご理解、ご協力を賜りましたことに、紙面をお借りして感謝申し上げます。

さて、高崎高校は、来たる平成19年に創立110周年を迎えようとしております。この間、高崎高校が、県内のみならず日本、さらには世界においても活躍する素晴らしい人材を輩出してきたことは、皆様方の知るところであります。現在在学中の後輩達も、日々文武両道を実践し、次代を担う人材になるべく努力しております。

この同窓会報にも、毎年、後輩達の活躍の様子が記されておりますが、文武両面において、着実に成果を伸ばしている様子がうかがわれ、OBとして頼もしい限りです。去る11月8日には、伝統のマラソン大会が開催され、色づき始めた観音山を在校生一同が澁刺として疾駆する姿があり

ました。このマラソン大会も今年で58回を数え、翠巒祭、定期戦と並ぶ高崎高校伝統の行事であり、当時を懐かしく思い出される方も多いことでしょう。

近年の高崎高校は、SSH（スーパーサイエンスハイスクール）に始まり、HS（ヒューマンサイエンス）にと、次代のリーダーを養成するべく新たな改革を行なっておりますが、これらの改革を支え、実りあるものとしているのは、本校110年の伝統と歴史の中で培われてきた「文武両道」の精神でありましょう。今回110周年の節目を迎えるにあたり、このよき伝統のもと、今後の母校が更なる発展を遂げることを期待しております。

平成19年5月20日に実施される記念式典、講演会を中心とした記念事業の実施にあたっては、110周年にふさわしいものとなるよう本同窓会も学校に全面協力してまいりたいと考えておりますが、事業の推進にあたって、同窓諸兄のご理解、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

私をはじめとして常任理事、本部幹事など役員構成が改まり、新体制で活動に臨んだ本年であります。冒頭でも述べましたように、同窓諸兄の皆様方より、ご協力をいただきながら、ここまでつつがなく本会を運営してこることができました。なかでも、かねてより若い世代の同窓生の本会への参加を期待しておりましたが、今年開催された常任理事会や理事会においては、80期代の方々にも今までになく出席していただくことができ、大変喜ばしく思っております。今後さらにその数が増え、本会に新風を吹き込んでくれることを改めて期待しております。

110周年の節目を迎え、本会も、在校生の澁刺とした姿に負けぬよう、「翠巒」の歌詞にあるようにますます「意気高く」進んでいきたいと考えております。今後とも、本会に対するご理解ご協力を賜りますようお願い申し上げます。挨拶とさせていただきます。

(原)代表取締役会長

ぐんべい代表取締役会長 56期



いあいさし

学校長 栗原 健

はじめに、同窓会報第40号の発刊を心からお慶び申し上げます。

平素より母校に熱き思いを寄せる同窓会並びに会員の皆様には、本校が取り組む教育活動の全般にわたり温かいご理解と心強いご支援・ご協力を賜り、ここに改めて母校の充実発展に対する数々のご尽力に深く感謝申し上げます。

私事になりますが、今年度末をもって38年間に及ぶ教職生活にピリオドを打つことになりました。その締めくくりの3年間を高高で過ごせたことは大変幸せなことであり、校長冥利に尽きるところがあります。本校の更なる発展を願うべく、最善を尽くし、有終の美を飾ることができるとは心願する所存であります。

ご案内のとおり、本校は来年度創立110周年を迎えます。そのため、原同窓会長を委員長とする実行委員会を立ち上げ、平成19年5月20日(日)に開催予定の創立記念式典、記念講演会及び祝賀会の準備を進めているところであります。記念講演の講師は、多くの話題を呼んだ「国家の品格」の著者、藤原正彦氏にお願いしています。また、創立110周年以降の10年間を中心にその歩みをまとめた目で見る記念誌の発行も考えているところであります。

さて、来年度高校入試からの全県一区の実施を前に、各校とも志願者の増減の

見込みをしつつ、どれだけ特色やメリツトを打ち出せるかが最大の関心事となっております。夏季休業中の中学生へのオープンスクールでは例年よりも100名以上多い630名以上の参加があり、本校に対する希望・期待の高さが示されました。今後とも、地元のみならず広く県内各地からこの高高を志望する意欲のある生徒諸君を確実に受け入れていきたいと考えています。

本校の3F精神に象徴される教育理念は、次代を担う若者を社会の有用な人材として育てていく上で欠かせない要件です。昨今の若者事情に触れるたびに、この高高という文武両道を旨とする学舎で一人ひとりが心身共に優れた若者として逞しく成長することを願わずにはいられません。

県内屈指の進学校、更には全国のトップとしての地位は決して譲らない覚悟と、加えて運動部・学芸部の更なる活躍も目指していきたいものであります。スーパースポーツハイスクール事業、同窓会等からご協力いただいている学校独自のヒューマンサイエンス事業はすこぶる成果をあげています。

今後とも、同窓会の皆様から変わらぬご指導、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。御礼の挨拶といたします。



校歌

同窓会副会長 串田 紀之

平成18年1月28日高崎高校同窓会新年総会の役員改選において、副会長の重責を指名され、母校のために微力ですが働かせて頂くことになりましたので宜しくお願ひ致します。

私は、最近校歌を歌う時、そのイントロのところで必ず目頭が熱くなってしまいます。「高高」という響き、学帽に2本の白線に憧れ、私もその帽子をかぶりたいとの思いから中学より努力をして、昭和40年に何とか合格を果たし「高生」になって、あの白線2本の帽子をかぶることができました。

しかし、思えばそこから苦難の3年間が始まりました。赤坂から国道17号線を横断し、木造で穴のあいた八千代橋を恐る恐る渡り教室へ入ります。最初周りは全員優秀な顔に見え焦りましたが、予想に反し私と同じ程度の仲間がいたことに安堵しました。授業の中では特に古文だけがなぜか先生(清野先生)にも教科書にも馴染めませんでした。そんな中クラスで一人先生に指名されると、すらすら答えるA君がいて、ここでも驚きと落胆を受け、私も必死についていこうと家で勉強しましたが試験の結果はさんざんなもので、先生から職員室に呼ばれ苦言を受けたことで自分に自信をなくし悩むこ

とがしばしばありました。

そんな中でも楽しかった思い出があります。1、2時限目の休み時間での早弁、山田食堂での談話、そして関西への修学旅行専用列車での騒ぎ、現地での女子高生との出会い、バスガイドとの語らいなど。また、翠巒祭ではクラブの出展準備のなかで「もりや食堂」で食べた焼きそば、定期戦での汗や怪我等々、また勉強の合間での息抜き、学校帰りの「あすなろ喫茶」での語らい、自転車で友達とアーケードを南から北まで女子高生を見ながら帰宅することなどたわいもないことに騒ぎ青春を謳歌していました。

そしてその時々校歌が流れ耳に焼きついていきます。なにしろ人生で一番果敢な時高崎高校に身を置かせて頂き、勉強は苦しかったが友達との出会いがあり楽しく過ごした思い出多き3年間に感動を覚え、それが今走馬灯のように思い出されて校歌のイントロを聴くと目頭が熱くなるのかも知れません。

最後に、高高で学べたことや諸先生方の献身的なご指導に今更ながら感謝申し上げます。

(クシダ工業株式会社)

代表取締役社長(67期)

論壇

21世紀のテレビと政治

関根 建男



想えば高崎高校は、野球部、ラグビー、柔道部と、進学校のくせにスポーツも盛んで、文武両道であった。

我ら57期生は開校60周年記念の祭典が3年生の秋に挙行され、「校歌のモデルチェンジ」があった年代だが、いままも不思議と交流が深い。

同級生には、上野公成をはじめ、多士済々。小泉内閣の時は、ご存知・副官房長官の上野公成は、八面六臂の大活躍、クラス会には汗々しながら列席し寸時の交歓の後、あたふたと官邸に戻ってゆくようなことが何度かあった。

来年の参院選には、比例代表で再出馬だそうだから、まだまだ先が楽しみだ。さきごろ、5年5ヶ月続いた小泉政権は終わった。

小泉純一郎氏は実はテレビとテレビCMに滅法強い政治家であった。天性のつかみの良い言動が、連日のTVインタビューの際に、多くの国民の心をつかんで見せた。政権担当中も、逆風にさらされ支持率が急降下すると、きまってV字型の回復をみせ、5年に余る長期政権を乗り切った。

テレビを抜きにして21世紀の政治は考えられない。アメリカでも、ヨーロッパでも、テレビを巧みに活用できない政治家は、短命に終わっている。ケネディ大統領は、劣勢をテレビ出演と選挙CMでひっくり返し、みごとホワイトハウス入りを果たした実績の持ち主だ。中曽根さんと親交の深かったレーガン大統領も然り。このアメリカ流のテレビの活用術は、小泉さんのお手本となった観がある。

小泉さんは、テレビ的と称されたが、じつは15秒・30秒というテレビCMの世界でも強かった。

「自民党を、ぶっ壊す」と自らCMの中で叫ぶと、これが日本列島の共感と好感を呼んで、政治には無関心だった若年層・女性層までを糾合。在任中の選挙を毎度も勝ち抜いて長期政権を固めて見せた。テレビCMと日本の政治について振り返ると、小泉さんは凄い。

自ら出演したCMが、2005年1月に、内閣総理大臣として登場した「愛・地球博」のCMを含めて、全部で19作品も残っている。自演CMは、いずれもヒットCMとなった。

改革を言い続けた 変人出演のCM18作品

最初の出演CMは、就任直後の2001年5月。田中真紀子氏に名付けられた「変人」という呼称を巧みに使った意表をつくCMであった。

「永田町の変人は世の中では普通の人間だ。ならば私は喜んで永田町の変人であり続けよう。小泉の挑戦に力を」とCMは語りかけた。

続いて7月の参院選・本番に向けたCMでは、「改革を口にするには誰にでもできる。しかし我々にはそれを夢に終わらせられない実行力がある」

「古い自民党を壊したいんだ！」 「政策は国民と小泉の約束だ。できないよいうな約束なら最初からしない」

など、改革へ向けた力強いメッセージを語った。

ついで、2003年11月の衆院選。マニフェスト選挙となったこの時は、「小泉です。世界一安全な国、日本の復活を目指します。犯罪対策に全力で取り組みます」「福祉、年金、皆さんの不安の声を、私はしっかりと聞いています。年金、医療、介護の制度改革。小泉はやりませう」など政策を語った。

翌2004年6月の参院選では、言葉が空回りした感もあるが、「この国を想い、この国を創る。自民党が目指すもの。それは、誰もがこの国に生まれてよかった。そう思える国創りです」など、「テーマはニッポン」で4作品のCMがオンエアされた。そして昨年2005年の衆院選。9・11選挙。郵政民営化一本に絞って反対派議員には刺客を送り、300議席に迫る歴史的勝利を収めた。

この選挙CMは、「4年前、私は皆さんと約束しました。自民党をぶっ壊してでも改革をやり遂げると。郵政民営化は国民の皆さんとの約束です」「郵政民営化は改革の本丸です。27万人の郵政公務員の既得権を守って一体どんな改革ができるんですか。郵政民営化は全ての改革につながるんです」と、例の強い口調で信念を語って成功を収めた。

9月の任期満了で退陣を公約していた小泉氏は、今年4月に自民党総裁として最後のイメージ・アップCMを流し、「景気も明るくなってきました。景気回復を本物にします。自民党は改革政党になりました。自民党は改革を続行します」と国民へ挨拶した。

小沢一郎氏のCM実績は？

有権者の約半分を占める無党派層にメッセージを届けるには、じつはテレビCMほど有効なメディアは、他にない。国政選挙で主要政党がアメリカ並みに競ってCMを

打つようになったのは1980年代後半から。わが国の選挙CMが「月例CM好感度調査」と重なるのと、各政党CMが一般のブランドCMと共に一般モニター3000人の「好感度スコア」となって、優劣が記録に残る。上位にランクインする政党と不振に終わる政党CMとが明確になる。CM合戦後の結果と獲得議席数増減との相関性を調べると、CM好感度の高かった政党は一律に議席を伸ばしている。

国民の支持率もCM好感度も高かった小泉政権を引き継いだ安倍晋三氏は、来年の参院選では、どんなCMで国民の好感を引きつけるのだろうか。

対する民主党は、これまで鳩山・菅・岡田の3人の歴代代表が次々と選挙CMに出演したが、CM好感度は今ひとつ芳しくなかった。来年は小沢一郎氏が党の顔として初の国政選挙を戦うと見られる。

小沢一郎氏は自由党時代に選挙CMで、なかなかの健闘を見せた。「自由党の小沢さんは、決断出来る人だから困っちゃう。なんて言うんだから、永田町ってここは妙なところだな。でも、あてに出来るのは自由党の小沢さんでしょ」(1988年)

「叩かれることを恐れては、未来につながる政策は実現しない。痛みを避けていては前には進めない。「日本一新」具体策があります。自由党です」(2000年)など、小泉流の先駆けのようなCMに登場。

じつさい自民党を凌ぐCM好感度を獲得し、議席を伸ばした。じつは「CM好感度調査」は、私が主宰するCM総合研究所が1985年から続けているものだが、そのデータから見ても小沢さんは小泉さん級で、意外や、テレビを通じてメッセージを伝える達人なのだ。

好スタートを切った新総理だが、ここにも一つ、ご用心である。

(CM総合研究所 代表 57期)



特別寄稿

忘れ得ぬことども

天田 允

大東亜戦争も漸く敗色が濃くなり始めた昭和18年4月、群馬県立高崎中学校に入学した。父親の勤めの関係で嘗て在学した北小学校で、後に著名な弁護士となって活躍されている新井章君と、中央小学校で商工会議所会頭を永く務められた児玉貴君と同級になった。

新井君は小学校から級長を勤め秀才の誉れ高く、体育以外のあらゆる学科に優秀さを発揮していた。当時上和田町に住んでいたので、末広町の新井君の家にはよく遊びにいったものだ。

児玉邸は鬱蒼たる木立に囲まれた文字通りの豪邸で、氷の冷蔵庫の我が家に比べ外国製の電気冷蔵庫であった。白色に輝くそれに、一種のカルチュアショックを受けたことを思い出す。恥ずかしがる田舎者に対して盛んに気を遣ってくれた。そのときの手の温もりがいまだに忘れられない。

当時は紀元2600年の奉祝ムードで国中が沸き立っていた。また、出征していく歩兵第15連隊の兵士たちのザックザックという軍靴の響き、それに続く濃紺の外套できめた従軍看護婦たちのなんと凛々しかったことか。いまでも耳

朶に残り、脳裏に焼きついている。幼い身にはよほど印象に深かったのだろう。その軍装からすると、行く先は満州か北支だったのか。

戦後このヒトたちの何人かが無事再び故国の土を踏めたであろうか。入学式の日懐かしい顔に出会い、やあとばかりに駆け寄って旧交を温めた。当時郡部の各市町村からは1名づつ、市内からは数10名が団体で入学したように記憶している。市内の連中は挙措動作、服装もあか抜けていて、威勢よく振舞っていた。啄木の歌ではないが、

我以外みな凄く秀才に見えた。田舎の神童？もここへきては小さくなっている他なかった。今までもお山の大将だっただけに、すっかり萎縮してしまった感を否めなかった。

当時は軍事教練などというものがあって、身の丈にあまる38式歩兵銃を背負い戦争ごっこを大真面目にやったものだ。巻き藁を敵に見立てて剣付き鉄砲で、刺突つという配属将校の掛け声のもと満身の力をこめて突き刺した。いまから考えればいささか神懸かっておったかどうか、当時は寸毫も疑うことなく真剣だった。教育の効果

というものは恐ろしいものである。

敗戦とともに一切の価値観が180度変わり、昨日までの軍国主義はどこへやら民主主義万能の時代とはなった。幼く凡庸な頭ではついていけないほどの急激な変化であった。

かつて若者といわれた昭和の一代も、はや余生という歳になり人生の最終章にピリオドを打つときになった。

各々がそれぞれの人生を生き、志を得られた者、また得られなかった者も等しく、あの数年間を思い出して思う存分懐旧の情に浸るといい。また声高らかに翠巒を歌うがいい。

ここではすぐ役に立つ実学は学ばなかったが、反面独り終日の読書にも耐え得る術、幅広い一般教養を身につける術を学んだと思う。今にして思えば、あの戦時下において如何に有難く恵まれた環境を与えられたかと思う。過分な、よき生涯の友を得られたことにも感謝したい。

(建設会社役員 47期)



特別寄稿

柔道場から熱帯林・サンゴ礁の海へ

鳥羽 通久

私にとって、高高で最も大きな比重を占めていたのは柔道部です。活躍したというわけではありません。そうでないと付いていけなかった、と言うのが実情です。柔道部には入学後すぐに入りました。それほど深く考えもせずに入ったのですが、当時ひ弱であった私は、体を鍛える必要は感じていたのです。パワー、持久力、俊敏性、すべてに欠けていたとはいえず、3月末の生まれで、小さい頃から体育面で同級生の後塵を拝するのには慣れており、一方自分なりの成長はしてきていると感じていましたから、そう心配はしていませんでした。

しかし、最初の2ヶ月ほどは相当にきつく、このころ落伍しなかったのは先輩方の指導がよほど適切だったのだらうと思います。こうして、3年生が引退する夏には、もう落伍する心配は全く無くなりました。柔道部での思い出はいろいろありますが、2年生の秋に左の膝をねんざしたこと（この時は右足一本で自転車をこいで通いました）、いつも投げられていた1年上の田口秀勇さん（66期）から、鮮やかな内股すかしで一本

を取ったことなどが忘れられませんでした。柔道場では、もう一つ思い出深いことがあります。私が高高時代、唯一活躍できたと思えるのが、クラス対抗の百人一首でした。小さい頃から正月の度に、従兄達に鍛えられていましたが、1年4組の時に3年生を破って優勝したので、各クラス5人ずつの源平方式の団体戦で、決勝戦の対3年5組戦は、鮮明に覚えています。金曜日の放課後に行われたのですが、7時限目が休講で、私は教室でのんびり過ごしてから、早めに柔道場に行ってみると、相手も休講で盛んに練習をしていました。私らがのぞき込んでみると、「見るんじゃねえ」という感じで、えらくピリピリしていました。試合は最初からこちらが優勢で、そのまま押し切ってしまった。途中、私が取った札の確認を求められると言ふ一幕もあり、この時の3年生には気合が空回りした上に、焦りまで感じられました。一方、こちらはリラククスして、のびのびと力を出し切った感じで、その差が出たように思います。

大学では、研究者を目指して理

学部で生化学教室に入りました。ここで偶然に出会ったのが、ウミヘビの神経毒です。一方では探検部の活動に熱中しており、実験室に閉じこもっているのには飽き足らなくなり、野外のヘビの研究もしたくなったのですが、どこでできるのか、悩んでいるときに見つけたのが今の研究所です。

今までの人生で、この頃ほど勉強した時期はありません。分類、形態から生態まで、やることはいくらでもありました。海外での調査もかなり行いましたが、楽しいのは南太平洋などでのウミヘビ調査で、サンゴ礁の美しさに加え、ちよつとした小島で100頭を超えるウミヘビが簡単に採集できます。面白いのは夜の熱帯林で、カエルやヤモリ、ヘビなど多彩な動物と出会う場になります。ヒルのようなありがたいものもいますが。

こうした活動を通じて、体力の不足を感じたことはありません。高高時代の鍛錬が今でも生きています。

（財団法人 日本蛇毒学術研究所

所長 67期）

特別寄稿

七七会と 共に歩んで

松本 基志



高崎高校第77期第1回同窓会 昭和83年3月19日 於高崎タワーホテル

私が高々に入学したのは、昭和50年4月、ベトナム戦争終結の年でした。

高校時代を振り返ってみると、入学した時は古い木造の校舎で、廊下には学生運動時代の「ビラ？」がまだ張ってありました。しかし、この校舎も1年生の時だけで、たぶん我々77期が木造校舎で学んだ最後の代ではないかと思えます。

記憶に残っているのは、前高との定期戦。当日は一般・部対抗とにも大いに盛り上がりましたし、更に、定期戦が近くなると、TB Sラジオの深夜放送、バックインミュージックで、話題になり、夜中にラジオから「翠帯」が流れてきたのを聞いて喜んでいました。

部活動は、山岳部に所属。練習はと言うと毎日、観音山を走っていました。山にもよく行きましたし、部員はまさに同じ釜の飯を食った仲間で、今でも親しく付き合っています。

同級生とも卒業後も何かと集まる事が多かったのですが、ある時、「来年は卒業して10年だ、そろそろ同窓会をやるうじやないか。」という話になり、飲んでいる勢いもあって、その場で決定。卒業後ちょうど10年目の昭和63年に初めて同窓会を開催、私達が28歳の時

でした。百数十人の同窓生、恩師の皆様が集まって頂き、「今年はこちらようどオリンピックの年だから、77期の同窓会は、オリンピックの開催される4年毎に開催しよう。」と提案、その後、約束どおりに同窓会を開催してきました。オリンピックの年は77期の同窓会と言う事が、恩師の皆様にも認知され、何かの折にお会いすると、「松本、今年同窓会だろう。」と、先生から声をかけて頂くようになりました。そして、早いもので既に、同窓会を5回開催。続けてこられたのは、いつも何かあると、集まってくれる同級生がいたからです。そして第6回の77期同窓会をどうするか。実は、次の北京オリンピックの開催される2008年は、私達、77期が「高中・高々同窓会」の幹事期に当たります。自分達の同窓会はもとより、先輩達が続けてこられたこの「高中・高々同窓会」をなんとか成功させようと思

っています。同窓生諸兄のご協力を、この場をお借りしてお願いいたします。

さて、私の近況ですが、平成11年4月の高崎市議会議員選挙に初出馬、そして、平成15年と、2期連続当選をさせて頂きました。

高崎市は本年1月、倉沢村、箕

郷町、群馬町、新町、更に、10月には榛名町と合併し、人口34万人を擁する名実ともに群馬県一の都市になりました。この合併によって、高崎市の財産、あるいは魅力が増えたと思います。それは、恵まれた自然環境や、それぞれの地域が育んできた歴史、文化、人材などの貴重な資源です。今後、高崎市が持っている交通拠点性をはじめとする都市機能に、商工業や観光、農林業などの活力ある産業を融合し、それらを活用することにより、さらなる高崎市の発展の可能性が大いに広がったと思います。

私は、この記念すべき年の5月に、新高崎市誕生後、初の市議会議長に就任させて頂きました。誠に身の引き締まる思いがいたしました。今まで支えて下さった同級生や、更に先輩、後輩の高々同窓生諸兄に感謝するとともに、この気持ちをお忘れなく、今後、夢のある新高崎市の建設に向けて、全力で取り組んでいきたいと思っています。

(高崎市議会 議長 77期)



特別寄稿

高高に自信の◎!

鳥谷越 明

卒業から19年。突然の同窓会報への執筆依頼に正直、驚きました。各界で活躍されている諸先輩方を差し置いて、私のような若輩者の出る場所ではないのでは? 丁重に辞退しようと思いましたが、もしかすると、私の職業から「たまには変わり種も」と白羽の矢が立ったのかも。そう勝手に解釈して寄稿させて頂くことにしました。

勤務先はスポーツニッポン新聞社。いわゆる「スポニチ」の記者です。スポーツから芸能まで幅広く扱う新聞社ですが、私の担当は中央競馬。最近はいよいよインパクトという名馬が登場したこともあり、世間の関心も高まっています。競馬記者という職業はかなり特殊。スクープ合戦を繰り広げるジャーナリストとしての役割が当然第一ですが、競馬というのはファンに馬券を買ってもらって初めて成り立つ興行でもある。多くの人に興味を持ってもらうために多様な情報を発信するのも重要な仕事。私の場合「本社予想」という、スポニチを代表する予想(本命◎、対抗○など)を打つ重責を任せられていることもあり、毎週土日の競馬で「いかに多くのレー

スを的中させるか?」に最も重点を置かれる立場。日々、プレッシャーとの戦いです。

間違いなく馴染みのない職業でしょう。一週間の大体のスケジュールを紹介させていただくと、月曜日は中央競馬の全休日(レース、調教とも基本的に休み)のため我々も休日。火曜から木曜までは調教を行うトレセン(茨城、滋賀の2カ所)へ出張し、調教をチェックして厩舎関係者取材する。金曜は会社へ出勤してデスクワーク。土日は競馬場でレース取材といった感じ。それ以外にも、突発的な事件があれば昼夜なく取材に奔走する。求められる適性はただ一つ、競馬が大好きであること。あとは、とにかく体力勝負の激務。高高時代、所属していた野球部の猛練習によって培われたスタミナが役に立っているかもしれません。

高高時代の思い出は、やはり野球部で過ごした日々にあります。2年の春に体調を崩して退部するまでは「将来は野球で食っていい」と本気で考えるほど没頭していたもの。当時の練習は想像を絶するほど厳しかった。冬場などは、まず準備運動で観音山の10*ラン

ニング。その後にはホームベースからレフトポールまでの約90mダッシュを100本、腕立て伏せや腹筋を延々と。夏場は夏場で、炎天下で長時間に渡るノックの雨。練習終了後は、570*入りりのポカリスエットを一気に飲み干し、さらに水道水を満たしてゴクゴク。現在はそんな無謀なトレーニングは行っていないでしょうが、体中に水分が染み渡るあの快感は今も忘れられない思い出です。

大学浪人が決まって転がり込んだ兄の下宿が、日本ダービーなどの舞台となる東京競馬場がある府中市。これが、現在の職業を選択することになる最大の転機でした。ただ、野球への思い入れはまだまだに相当なもの。夏の甲子園予選などは高高の動向が気になり、スポニチ高校野球面で連日チェックしています。伝統の「守りの野球」は今も健在の様子。甲子園に出場することがあれば、仕事の合間を縫ってぜひ応援に駆けつけるつもりです。

(スポーツニッポン新聞社
編集局レース部中央競馬担当記者

87期

国連ビル前



ハーバード大銅像前



海外留学生との交流



ボストン美術館

【総括】

海外留学生と一緒に授業を受けて、生徒はイタリア人留学生の英会話能力に驚き、大いに刺激を受けたようである。また同時に、親しくなるきっかけを作る積極性も必要であると感じたようだ。研修が進むにつれ、カフェテリアで彼らと物怖じせず英語で話す生徒が増えていった。

芝生が美しい落ち着いたティーンカレッジの寮に滞在し、図書館・カフェテリア・テニスコートなどの大学施設を活用し、キャンパスライフを体験できたことも生徒には好評だった。一方で、アメリカ人の生活体験できるホームステイの希望もあるので、来年度は2つの滞在を組み合わせられるかを検討している。

ハーバード大学・MITなど大学が多く、美しいボストンの町とエネルギーに満ちたマンハッタンと2つの研修地は、時間的・金銭的な代価に見合った選択と言える。特に、マンハッタンでの体験学習は、ガイドなしに班別で事前学習による計画に従って見学するスリルに満ちた活動であった。生徒は地下鉄・バス・フェリーを

利用し目的地までたどり着き、英語を用いて海外で生活する貴重な体験をした。

短期間なので生徒の積極的な活動への参加なしには成功しない海外研修であったが、自分から動かなければ何も得られないと、全生徒が常に意欲的に取り組んでいた姿が印象に残った。帰国後、生徒の言動に「自信」が感じられたのは、それぞれの生徒が達成感や充実感を得たからではないだろうか。「またニューヨークに戻って、もっとうまく英語を話す」という生徒の希望が実現する日は、それほど遠くないであろう。



海外留学生との交流

特集

第1回 ヒューマンサイエンス 海外研修報告

第2学年ヒューマンサイエンスクラス(在籍42名)の25名が参加して、海外研修が実施されました。



平成18年

【日程】

7月22日(土)～8月1日(火)

10:01日

【目的】

海外で活躍する人材を育てる

【特色】

- (1) 語学研修では日本人だけのクローズドクラスではなく、海外留学生との混成クラスで授業を受ける。
- (2) 語学研修中の滞在はホームステイではなく、大学寮を利用する。
- (3) 研修地は世界の政治・経済の中心地、ボストン・ニューヨークにする。
- (4) 体験学習をできる限り実施し、海外で生活できる基礎を作る。



海外留学生との交流

【概要】

- 7月22日(土)午後10:40 ポストン・ディーンカレッジに到着。
- 7月23日(日) ハーバード大、MITなどボストン市内見学。
- 7月24日(月)～28日(金) ディーンカレッジ・アスペクトにて語学研修。
午前 海外留学生との混成クラス業。
午後 海外留学生とスポーツ交流、ボストン美術館見学など。
- 7月29日(土) ポストンからニューヨークへ移動。
午後 グランドゼロ、サウスストリートシーポート、ロックフェラーセンター、国連本部(見学ツアー)など、マンハッタンをバスツアーする。
- 7月30日(日) マンハッタン(ミッドタウンからダウタウン地域)を班別体験学習。
- 7月31日(月)～8月1日(火) ニューヨーク⇒デトロイト⇒成田空港⇒高崎高校

授業風景

『卒業50年を迎えて』

特別寄稿

2

市内の下宿を転々

～隣室に網中先生がいたことも

堀川 とんこう

僕は吾妻郡の中条町の出身なので、市内に実家がある同級生たちとは違い、当然のことながら卒業後の僕が帰省するのは高崎ではなかった。卒業とともに町との縁は急速に薄くなった。高崎は僕にとって、通過した町なのだった。

そのことに一抹の淋しさを感じてきたが、その代わり、高校時代の下宿生活という特別な思い出を持つことになった。

親が安いことを最優先に下宿探しをしたのだが、なかなか落ちつける宿に当たらず、最初の1年間に3軒替わった。

2年生になったとき、4軒目の石原町の下宿に移った。やはり二人の相部屋で、相手は国鉄の職員だった。彼も相当に貧乏で、一本しかないテラテラのズボンを毎晩丁寧に寝押しして寝ていた。冬もストーブはおろか炬燵もなく、僕はカイロ灰を入れた器具を足元に置いて勉強し、彼は外套を布団の上から掛けて寝た。そういう時代

だったのか。

この下宿が特別だったのは、隣の部屋に英語の網中先生が住んでいたことだ。先生はさすがに相部屋ではなかったが、僕たちの部屋との仕切りはフスマ一枚だった。

先生が夜中にこの襖を開けて、

「おい、まだ起きてるか？」と頂きものの羊羹やカステラをくれたりした。英語の定期試験があった日、「お前の答案を最初に見てやるぞ」という声がし、やがて襖が開いて「前置詞が一つ違う。3点引くぞ。147点だ」と僕の間違いを喜んでいっているようにいった。

しかし、先生が同宿で有難かったのは別のことだ。朝下宿を出て

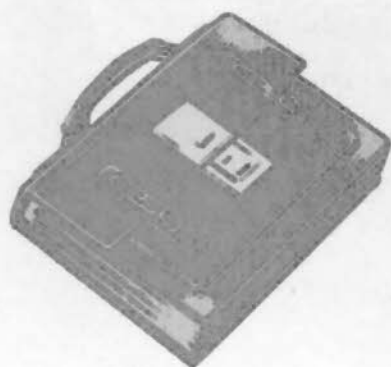
通学路を歩いていると先生の自転車が追い越していくのが常だったが、ときどき追い越しざまに「おい」といって自分の弁当箱を渡してくれた。弁当は僕も一つ貰って出てくるのだが、これが実に嬉しかった。腹はいくらでも空き、い

くらでも食べた。

ある夜、先生が襖越しに「堀川、悪いがしばらく下に行つてくれ」といったことがある。かすかに客の気配があった。階下の食堂に行く途中で玄関を見ると、察した通り白いハイヒールがあった。僕は「あの網中サンがねえ」と、何故かちよつと愉快だった。

この下宿には僕と同じ年の女子高生の娘がいて、ちよつと可愛かったが、試験前に数学を見てくれと頼まれて教えたときに、あまりに出来が悪かったので、以後胸がときめくことはなかった。下宿はどこも思い出が多いが、紙幅はすでに尽きた。

(演出家 55期)





同窓会だより

同窓会だより

高崎高校通信制同窓会

山本 好一

高崎高校通信制同窓会は、昭和56年8月に発足し、現在会員数は750余名います。

高崎高校通信制同窓会の主な事業は、「通信制同窓会だより」の発行、同窓懇親会と卒業祝賀会です。

最初に、「通信制同窓会だより」は総会の報告、新会員の紹介、夏に行われる同窓懇親会の案内が主な記事です。

2番目の同窓懇親会は、8月に納涼会を行っていたのですが、泊でゆっくり語りたいたの要望で県内各地を巡っています。毎年宿探しが大変ですが、参加してくれる人の喜ばれる顔に励まされています。そして、夜遅くまで日頃の仕事や家庭のことから在学当時の思い出話まで話題はつきることはないです。

3番目の卒業祝賀会は通信制同窓会が発足する前から有志により行われていました。それは、入学した時の事情がそれぞれ違つこと。家庭の事情、仕事、経済的理由等、様々な困難にぶつかりながら、5年、10年と言つ年月を掛けてそれを乗り越



えて卒業した仲間として祝賀会を催すようになったのではないかと思ひます。私も入学（昭和45年）当時この会に早く出られるようになりたいと思つたものです。当時は卒業生は1桁の人数でした。現在は50名前後が卒業するようになりました。そして、3年以下で卒業する生徒が半数以上になり、生徒同士の繋がりが以前より弱くなつて来ていますが、以前のようにこの会が盛大に催せるようにしたいと思ひます。

以上3つの主な事業を紹介してきましたが、通信制50年を迎え、

これからも時代と共に少しづつ変わつてゆくと思ひます。でも、高高通信制の精神は、これからも変わらずに伝えて行けたらと願っています。

通信制同窓会の紹介をしました、書けば書くほどいろいろな想いが混ざり上手く伝わるか心配しています。

最後に、このような機会を設けて下さつた会長さんや多くの方にお礼を申し上げます。

(86期)

卒業祝賀会



同窓会本部から



◇新会長に原 浩一郎氏就任

1月28日、第104回同窓会総会に於て、左記の役員が承認され就任されました。

会 長 原 浩一郎 (56期 新任)

副会長 佐藤 和徳 (57期 留任)

大木 紀元 (58期 留任・東京同窓会長)

有田 喜一 (60期 留任)

串田 紀之 (67期 新任)

長坂 資夫 (70期 新任)

田中 勇一 (全日教頭 新任)

箕輪 明 (通信教頭 留任)

会計監査 和田 徹 (56期 新任)

浅沼 孝章 (73期 新任)

松岡 光弘 (77期 留任)

1月30日原会長より左記の役員が委嘱されました。

書記 2名 (校内幹事)

会計 3名 (校内幹事)

常任理事 142名 (内本部幹事14名)

理事 189名

任期は各々3年です。

横田英一前会長は常任理事会を経て原会長より顧問を委嘱され就任されました。

◇名簿発行の準備進む

本同窓会の会員名簿発行は平成19年5月を予定しています。現在各会員に「確認カード」が発送されその返信データを整理しています。時節柄作業を慎重に進めています。この時期類似の案内、勧誘には十分に気をつけて下さい。

◇創立110周年記念事業 実行委員会設置

6月13日実行委員会が設置され内容の検討に入りました。

実行委員会委員長 原 浩一郎同窓会長

式典日時 平成19年5月20日(日)

式典概要

・記念講演会 講師藤原正彦氏

・記念式典 ・祝賀会

◇訃報

小山禧一氏 80才(42期) 2月15日逝去

同窓会顧問。元会長。第53回選抜高校野球大会出場特別後援会会長。100周年記念行事実行委員長。県公安委員長。群馬経済同友会代表幹事。美峰酒類社長、会長を歴任。故福田越夫元首相、福田康夫元官房長官の2代にわたり後援会総連合会会長を務めた。

田島秀雄氏 82才(41期) 2月19日逝去

昭和20年11月より59年3月迄本校で教鞭をとる。

愛称「天皇」として多くの学生に親しまれた。元安中市教育委員。

謹んでご冥福をお祈り致します。

◇翠巒セミナー

●第1回(通算53回) 平成18年6月17日(土)

「へび研究の周辺より」

(財)日本蛇族学術研究所所長

鳥羽 通久 氏(67期)

●第2回(通算54回) 平成18年10月14日(土)

「夢を抱いて」 — 教員と音楽家の二つの道を歩んで —

織田 修一 氏(63期) バリトン独唱

田中悠一郎 氏(97期) ピアノ伴奏

卒業生の作品紹介 21



清水 英寿
(清水歯科医院 79期)



『私の作品』
「伽羅先代萩より仁木弾正」

私が小学校6年生の時、33年前の昭和48年にNHK人形劇「新八犬伝」の放映が始まった。以後2年間、悪かれたように人形劇を観た。日本の伝統文化が凝縮された人形を自分も作りたいという思いから、大学進学を機会に人形師辻村ジュサブロー先生のアトリエを訪ねた。以来45に至る現在も先生との交流を続け、日本橋人形町のアトリエに通って人形製作

の御指導をいただいている。歌舞伎・文楽・錦絵や友禅などの知識を学びながら、近松の時代の一人操りの人形を製作する。高崎染の紺屋だった家業の昔を彷彿とさせる古風が蘇る。

男子は頭頂にある松果体というホルモン分泌臓器が柔らかいそうで、それがロマンや子供っぽさの源となっているらしい。万年少年の懐古趣味である。

翠 戀文庫 BOOK

●著書

□福祉のあいうえお
—青幾重の風姿—

□幕末維新时期 動乱の高崎藩

□ぐんまの新聞

□農民運動を推進したクリスチャン
—資料で見る父、清水甫之吉の生涯—

□憲法と人権教育

●作者

星野 茂 (72期)

清水 吉二 (51期)

清水 吉二 (51期)

清水 吉二 (51期)

永井 憲一 (49期)

●著書

□句読点活用辞典

□南方熊楠と「事の学」

□六月の風・十七歳の文学誌
—私の近代文学ノート—

□群馬県行政書士会
新会社法研修レメジュ
「行政書士にとっての新会社法の意義」

□解決!センター化学 I 新装版

●作者

大類 雅俊 (53期)

橋爪 博幸 (88期)

吉永 哲郎 (54期)

黛 憲二 (73期)

金井 明 (68期)

牛田 啓太 (95期)

島田 透 (95期)

小宮 直人 (97期)

梅澤 幸平 (97期)

小暮 泰寛 (103期)

平成十八年度 褒章・叙勲受章者 (敬称略)

〈春〉 瑞宝双光章 (教育功勞)

瑞宝双光章 (教育功勞)

黄綬褒章

〈秋〉 瑞宝単光章 (社会福祉功勞)

山本 健司 (42期)

佐藤 修 (49期)

柴田 直彦 (52期)

石出 宗成 (45期)

(注) もし漏れがありましたら、恐縮ですがご連絡ください。

母校だより

各部の活躍・活動

柔道部から

私は今年度の県高校総体個人無差別級で優勝し、またインターハイ県予選73kg級でも優勝して関東大会、全国大会へ出場することが出来ました。これは1年生、2年生と日々の積み重ねの成果が出た結果でした。

柔道部は部員数が少ないうえに、他の強豪校と比べ体格に劣る部分のあるチームでした。しかし、顧問の鳥居先生の常に全力を尽くして、限界に一步踏み込んでいくという御指導のもと、部員一丸となって稽古に励んでまいりました。日々の練習はわずか2時間ばかりではありますが、創意工夫を凝らし内容の質を高めていくことで他の学



佐藤 貴浩

校にはない練習が出来たと思います。また、毎年8月に行われる強化合宿や1月1日に行われる稽古始め等に、沢山のOBの先輩方が駆けつけて下さり、私達に稽古をつけて下さいました。先輩方から学んだ事は数知れず、私達の大きな支えとなりました。

結果の出ない時期もありましたが、このような充実した日々を送れたことで、部員各々が県上位レベルの実力をつけるにいたりました。その中で訓練されたことにより私の残した成果も生まれたのだと思います。

多くの方々のおかげで出場を果たした関東・全国大会でありましたが、今一步力が及ばず両大会初戦敗退という結果に終わってしまいました。しかし大きな舞台で今まで高崎高校柔道で積み重ねてきたことを試すことができたのは、大変良い経験となりました。

次に続く後輩達も、全国大会や関東大会に向けて日々精進し、切磋琢磨しあっております。彼らならばきっと活躍してくれるのではないかと思いますので、どうか期待して応援をしていただければと思います。

SPORTS

運動部

- ① 県総合体育大会
- ② 関東大会
- ③ インターハイ予選
- ④ 全国高校総体
- ⑤ 国体
- ⑥ 県新人大会
- ⑦ その他の大会

空手道部

- ① 個人形 笠原 俊 予選敗退
- 徳江 俊一 予選敗退
- ② 個人組手 新井 超統 1回戦敗退
- 櫻井 志史 1回戦敗退
- 國井 洋雄 1回戦敗退
- 宮入 盛豪 1回戦敗退
- ③ 団体組手 1回戦 高崎4-1太田東
- 2回戦 高崎0-5太田
- ④ 個人形 金井 良介 予選敗退
- 高瀬 雄斗 予選敗退
- 新井 超統 1回戦敗退
- 鎌田 和貴 1回戦敗退
- 金井 良介 1回戦敗退
- ⑤ 個人組手 1回戦 高崎 不戦勝 共愛学園
- 2回戦 高崎0-5沼田
- ⑥ 個人形 金井 良介 予選敗退
- 高瀬 雄斗 予選敗退
- 高瀬 雄斗 1回戦敗退
- 佐野 慎也 1回戦敗退
- ⑦ 1・2年生大会
- ⑧ 個人形 金井 良介 予選敗退
- 高瀬 雄斗 予選敗退
- 高瀬 雄斗 2回戦敗退
- 矢島 知樹 2回戦敗退
- 佐藤 義広 1回戦敗退
- 三浦 修平 1回戦敗退

弓道部

- ① 予選敗退
- ② 予選敗退
- ③ 予選敗退
- ④ 予選敗退
- ⑤ 予選敗退
- ⑥ 予選敗退
- ⑦ 予選敗退
- ⑧ 予選敗退
- ⑨ 予選敗退
- ⑩ 予選敗退
- ⑪ 予選敗退
- ⑫ 予選敗退
- ⑬ 予選敗退
- ⑭ 予選敗退
- ⑮ 予選敗退
- ⑯ 予選敗退
- ⑰ 予選敗退
- ⑱ 予選敗退
- ⑲ 予選敗退
- ⑳ 予選敗退
- ㉑ 予選敗退
- ㉒ 予選敗退
- ㉓ 予選敗退
- ㉔ 予選敗退
- ㉕ 予選敗退
- ㉖ 予選敗退
- ㉗ 予選敗退
- ㉘ 予選敗退
- ㉙ 予選敗退
- ㉚ 予選敗退
- ㉛ 予選敗退
- ㉜ 予選敗退
- ㉝ 予選敗退
- ㉞ 予選敗退
- ㉟ 予選敗退
- ㊱ 予選敗退
- ㊲ 予選敗退
- ㊳ 予選敗退
- ㊴ 予選敗退
- ㊵ 予選敗退
- ㊶ 予選敗退
- ㊷ 予選敗退
- ㊸ 予選敗退
- ㊹ 予選敗退
- ㊺ 予選敗退
- ㊻ 予選敗退
- ㊼ 予選敗退
- ㊽ 予選敗退
- ㊾ 予選敗退
- ㊿ 予選敗退

硬式野球部

- ① 春季関東高校野球大会群馬県予選
- 2回戦 高崎10-0高商大附
- 3回戦 高崎3-2太田市商
- 4回戦 高崎3-4高崎商(ベスト16)
- 全国高等学校野球選手権群馬大会
- 2回戦 高崎9-0下仁田
- 3回戦 高崎3-1高崎東
- 4回戦 高崎2-0太田
- 準々決勝 高崎0-1前橋工(ベスト8)
- 秋季関東高校野球大会群馬県予選
- 2回戦 高崎3-5前橋

サッカー部

- ① 2回戦 高崎2-1藤岡工
- 3回戦 高崎8-0中央
- 4回戦 高崎1-4館林(ベスト16)
- ② 2回戦 高崎3-0吉井
- 3回戦 高崎1-0高崎北
- 4回戦 高崎2-1桐生一
- 準々決勝 高崎0-1伊勢崎商(ベスト8)
- ③ 高崎1-1桐生
- 高崎1-0常磐
- 高崎0-1高崎経附
- 高崎1-3桐生一
- 高崎2-0館林
- 高崎6-1太田市商
- 高崎0-1前橋東(県1部リーグ5位)
- ④ 全国高校サッカー選手権大会群馬県大会
- 決勝トーナメント

- ① 1回戦 高崎2-1前橋工

剣道部

- ① 団体組手 高崎 不戦勝 共愛学園
- 1回戦 高崎0-5沼田
- ② 個人形 金井 良介 予選敗退
- 高瀬 雄斗 予選敗退
- 高瀬 雄斗 1回戦敗退
- 佐野 慎也 1回戦敗退
- ③ 1・2年生大会
- ④ 個人形 金井 良介 予選敗退
- 高瀬 雄斗 予選敗退
- 高瀬 雄斗 2回戦敗退
- 矢島 知樹 2回戦敗退
- 佐藤 義広 1回戦敗退
- 三浦 修平 1回戦敗退

1回戦 高崎3-0藤岡工
準々決勝 高崎0-4前橋商(ベスト8)

山岳部

①第9位

柔道部

①団体 3位
個人 佐藤貴浩 優勝

②団体 出場
個人 佐藤貴浩 出場

③団体 3位
個人 井上貴仁(66kg級) 準優勝

佐藤貴浩(73kg級) 優勝

吉田将治(90kg級) 3位

④個人 佐藤貴浩 出場

⑦県Jr選手権大会
井上貴仁(66kg級) 優勝
佐藤貴浩(73kg級) 優勝
吉田将治(90kg級) 3位

水泳部

①個人

小林郁也 二百m背泳ぎ 4位
二百m個人メドレー 6位

塚越祐太 二百mバタフライ 7位
百mバタフライ 6位

西野晃史 千五百m自由形 6位

④団体
四百mメドレー(小林・伊藤・塚越・南) 8位
四百mリレー(塚越・小林・南・柴崎) 7位
八百mリレー(小林・西野・南・塚越) 7位

⑥個人
清水文也 百m背泳ぎ 4位
五十mバタフライ 3位

伊能知彦 百m平泳ぎ 6位
二百m平泳ぎ 4位

西野晃史 二百m自由形 6位
四百m自由形 3位

⑦春季新人水泳大会
四百mメドレー(西野・伊能・清水・神尾) 3位
二百mリレー(清水・伊能・神尾・西野) 3位
四百mリレー(清水・伊能・神尾・西野) 3位

個人 南 亮 五十m自由形 5位
関東高校県予選
個人

小林郁也 二百m背泳ぎ 4位
二百m個人メドレー 4位

塚越祐太 二百mバタフライ 6位
百mバタフライ 8位

④団体
四百mリレー(柴崎・塚越・清水・南) 8位
八百mリレー(南・小林・西野・塚越) 6位

ソフトテニス部

①団体 2回戦 高崎3-0館林

3回戦 高崎0-2高崎工(ベスト16)

個人 富所・神宮組 優勝

②個人 梅村・西田組 9位
富所・神宮組 4回戦進出
梅村・西田組 2回戦進出

③団体 2回戦 高崎3-0中央
3回戦 高崎2-0市立伊勢崎
4回戦 高崎0-2農大二

個人 富所・神宮組 優勝

④個人 梅村・西田組 2位
伊藤・千田組 3位

⑥団体 富所・神宮組 2回戦進出
梅村・西田組 2回戦進出
伊藤・千田組 2回戦進出

⑦個人 秋山・金井組 9位
4回戦 高崎0-2沼田(ベスト8)

⑦ハイスクールジャパンカップ県予選
梅村・西田組 優勝
富所・神宮組 3位

ハイスクールジャパンカップ全国大会
梅村・西田組 予選リーグ 0勝2敗

卓球部

①個人 3回戦進出

ダブルス 3回戦進出

②団体 2回戦進出
2回戦進出

軟式野球部

①1回戦 高崎6-1前橋南

2回戦 高崎2-6太田

⑥1回戦 高崎5-4館林
2回戦 高崎5x-4太田
準決勝 高崎1-6前橋(ベスト4)

⑦全国高等学校野球選手権群馬大会
1回戦 高崎(不戦勝)長野原
2回戦 高崎0-13高崎商

バドミントン部

①団体 2回戦 高崎2-1農大二

3回戦 高崎0-2桐生

シングルス 岡田・青木組 4回戦

ダブルス 岡田・木村組 3回戦

青木・奥那城組 3回戦

③2回戦 高崎3-0伊勢崎工
3回戦 高崎0-3西邑乗

⑦高校生バドミントン大会
石井 ベスト8
木村 ベスト16

バレーボール部

①4回戦 高崎2-0沼田

準々決勝 高崎2-1高崎北

準決勝 高崎0-2明和県央(第3位)

②1回戦 高崎0-2東金(千葉)

③4回戦 高崎2-0館林商工

準々決勝 高崎2-0桐生

準決勝 高崎0-2伊勢崎(第3位)

⑥新人大会 2回戦 高崎2-1伊川

3回戦 高崎2-0館林商工
準々決勝 高崎2-0前橋
準決勝 高崎0-2桐生市商

⑦西毛地区大会 2回戦 高崎2-0榛名

準決勝 高崎2-0高崎工
決勝 高崎0-2高崎北(準優勝)

ラグビー部

①1回戦 高崎50-7桐生

2回戦 高崎50-5樹徳

準決勝 高崎17-19明和県央
3位決定戦 高崎21-25高崎商(ベスト4)

⑤西川大樹 出場
関東プロック1回戦 群馬10-33東京

⑥2回戦 高崎(合同)59-0興陽・高崎工(合同)

準々決勝 高崎(合同)5-42明和県央(ベスト8)

⑦全国高校ラグビーフットボール大会群馬県予選
準々決勝 高崎43-10樹徳
準決勝 高崎5-47農二(ベスト4)

7人制大会 1回戦 高崎72-0富岡

2回戦 高崎36-7伊勢崎
3回戦 高崎24-17樹徳

準決勝 高崎0-22農大二(ベスト4)

陸上競技部

①中島清純 四百mH 5位

土屋貴弘 三千mSC 3位

松田貴之 走高跳 4位

加倉敬太郎 百十mH 7位

高濱郁彦 走幅跳 8位
三段跳 7位

齋藤駿介 やり投 7位

②中島清純 四百mH 組3位

土屋貴弘 三千mSC 組7位

松田貴之 走高跳 記録なし

⑥黒澤太郎 百m 7位

小林 幹 二百m 4位
中山隆雄 八百m 7位
関 祐輔 千五百m 2位
土屋貴弘 五千m 1位

神宮 聡 三千mSC 1位
加倉敬太郎 百十mH 2位
松田貴之 走高跳 5位
齋藤駿介 やり投 4位

⑦群馬県陸上競技選手権大会
四x百mリレー(小林・加倉・黒澤・齋藤) 3位

中島清純 四百mH 7位

土屋貴弘 三千mSC 5位

梅山伸太郎 棒高跳 6位

国民体育大会県予選

小林 幹 少年B 二百m 1位

黒澤太郎 少年B 二百m 4位

関東陸上競技選手権大会

加舎敬太郎 百十mH準決勝 組8位

中島清純 四百mH準決勝 組7位

土屋貴弘 三千mSC決勝 14位

梅山伸太郎 棒高跳 記録なし

学校対抗

黒澤太郎 百m 6位

小林 幹 百m 7位

中島清純 二百m 7位

中島清純 四百m 7位

浅沼孝治 四百mH 5位

大崎雄也 八百m 4位

加舎敬太郎 五千m 8位

加舎敬太郎 百十mH 5位

三段跳 8位

土屋貴弘 三千mSC 3位

梅山伸太郎 棒高跳 2位

松田貴之 走高跳 4位

齋藤駿介 やり投 4位

四×百mリレー(小林・加舎・黒澤・齋藤) 5位

男子一部 総合6位

県高校強化大会

2・3年生の部

土屋貴弘 五千m 1位

大崎雄也 五千m 6位

加舎敬太郎 百十mH 2位

松田貴之 走高跳 3位

三段跳 5位

齋藤駿介 走幅跳 5位

やり投 2位

1年生の部

黒澤太郎 百m 5位

小林 幹 二百m 1位

和田尉吹 五千m 3位

関 祐輔 五千m 5位

鈴木良太 ハンマー投 6位

四×百mリレー(小林・加舎・黒澤・齋藤) 5位

スキー・スケート部

① ジャイアントスラローム 横田穂高 7位

スラローム 横田穂高 8位

② 横田穂高・狩野明彦 出場

⑤ 横田穂高 出場

⑦ 関東スキー選手権大会

ジャイアントスラローム 横田穂高 3位

スラローム 横田穂高 9位

テニス部

① 団体

2 回戦 高崎3-0前橋

3 回戦 高崎2-0農二

4 回戦 高崎2-0高崎工

決勝リーグ

高崎1-2育英

高崎1-2太田

高崎3-0前橋商(第3位)

個人

ダブルス 新開・河野組 優勝

シングルス 新開康平 ベスト16

河野広樹 ベスト16

③ 個人戦

シングルス 新開康平 ベスト8

団体戦

1 回戦 高崎3-0太田市商

2 回戦 高崎1-2伊勢崎東(ベスト8)

⑥ 団体戦

2 回戦 高崎4-1桐生

3 回戦 高崎3-1前橋西

4 回戦 高崎0-3太田市商(ベスト8)

バスケット部

① 1 回戦 高崎94-26伊勢崎工

2 回戦 高崎66-36太田市商

3 回戦 高崎14-30高崎工

準々決勝 高崎89-68新島

準々決勝 高崎61-64前橋商

③ 1 回戦 高崎102-30藤岡工

2 回戦 高崎66-38西邑楽

3 回戦 高崎76-40前橋東

準々決勝 高崎99-77新島

準々決勝 高崎46-70育英

⑤(関東ブロック) 準々決勝 群馬86-98東京



将棋・囲碁部

⑥ 囲碁

① 全国高等学校囲碁選手権群馬県大会

個人 清水健登 優勝

青山英樹 5位

団体 高崎A(清水健登、青山英樹、大久保健太郎) 優勝

② 全国高等学校囲碁選手権

個人 清水健登 出場

団体 予選リーグ敗退

③ 全国高等学校総合文化祭

団体(副将 青山英樹) 3勝3敗

④ 関東地区高等学校囲碁選手権

大会県予選会

個人 青山英樹 優勝

団体 高崎A(青山英樹、牧野康隆、内田貴大) 優勝

高崎B(有賀長遠、奥田賢史郎、芳賀信孝) 準優勝

⑦ 将棋

① 全国高等学校将棋選手権群馬県大会

個人 田中 馨 3位

高橋 遼 5位

団体 高崎A(井上知也、高橋伸弥、柴山和明) 優勝

② 全国高等学校将棋選手権

団体 予選リーグ 2勝2敗(予選敗退)

③ 全国高等学校将棋竜王戦県予選

井上知也 3位

柴山和明 5位

高橋 遼 5位

④ 関東高等学校文化連盟将棋大会

群馬県予選

戸塚大介 男子B 5位

映画研究部

第53回NHK杯群馬県大会出品

JRC部

回収活動(フルクア古紙ペットボトルのふた)

観音山清掃

募金活動(赤い羽根共同募金・おつり募金)

献血への参加

写真部

写真甲子園関東ブロック出品

新聞部

②0回群馬県高校新聞コンクール 知事賞

⑩回全国高等学校新聞年間審査 優良賞

吹奏楽部

②9回県アンサンブルコンテスト

打楽器3重奏(信澤宣明・堀口拓未・加藤漢太) 金賞

⑨回県ソロコンテスト

フルート独奏 高橋惇紀 銀賞

④7回県吹奏楽コンクール A組 銀賞

百人一首部

① 県高等学校百人一首かるた大会 B級 出場

② 県高等学校百人一首かるた学校対抗 出場

文芸部

① 群馬県高校生文学賞

(文芸誌部門) 県予選通過全国大会応募

(散文部門) 高桑 翔

「尾切り」優良賞(全国大会応募)

「ふるさとはいま」佳作(全国大会)

和太鼓同好会

① 全国高等学校総合文化祭京都大会

代表選考会 優勝(京都大会出場)

第60回定期戦

今年の定期戦は「第60回という記念すべき大会での圧勝」を目標として高くで開催された。

前哨戦として行われた水泳は、高高校のお家芸という前評判通り高高校の3連勝であったが、軟式野球部、硬式野球部は健闘むなしく惜敗してしまい、高9、前高12となり、3点差で本戦を迎えた。「ジンクスブレイカー」を合言葉にアウェイでの勝利を得ようとする前高。ホーム勝利という13年間続くジンクスを死守しようとする高高校。両校の白熱した気合いが衝突した本戦は、部活動、一般対抗共に高高校の圧勝という結果で幕を閉じた。

「絶対に負けられない戦い」と自分で位置付けていた行事であったので、このような良い結果となり、清々しい達成感を感じている。正しく感無量であった。OBの方々も感じたであろうが、高高校としてこれ程までも自分が熱中する事ができ、そして多くを学ぶ事のできる行事は他に存在しないと思う。故にこの定期戦は今日まで続いてきたのだろう。是非、高高校、前高の両校生徒には、自らを高めあう為にこの素晴らしい伝統を続けてもらいたいと思う。

伝統よ更に栄あれ

第60回定期戦実行委員長 小島 光明

進路状況 (全日制) ()内は現役

大学	年次	16年	17年	18年	大学	年次	16年	17年	18年
北大		4(4)	6(4)	9(7)	慶應大		59(48)	100(84)	73(66)
東北大		17(15)	30(25)	42(38)	早稲田大		73(51)	108(78)	67(57)
筑波大		6(5)	11(9)	6(6)	中央大		61(50)	121(101)	104(100)
千葉大		10(5)	12(10)	6(5)	明治大		53(39)	87(68)	114(105)
群馬大		20(18)	40(37)	22(20)	上智大		8(7)	7(3)	6(5)
(医)		5(5)	8(6)	5(4)	立教大		21(18)	33(22)	11(11)
埼玉大		4(2)	5(5)	11(11)	学習院大		5(1)	4(2)	1(1)
東京大		12(11)	14(13)	13(11)	青山学院大		13(8)	29(23)	14(14)
一橋大		1(1)	7(6)	4(4)	法政大		31(27)	37(30)	26(24)
東工大		6(6)	9(8)	3(3)	日本大		53(37)	78(67)	80(70)
横国大		6(4)	5(5)	5(3)	東京理科大		81(63)	130(108)	159(145)
新潟大		12(9)	12(12)	17(15)	芝浦工業大		31(27)	38(31)	59(58)
金沢大		6(5)	8(7)	8(7)	同志社大		4(4)	5(5)	1(1)
信州大		7(6)	2(2)	3(3)	立命館大		12(11)	52(47)	7(6)
名古屋大		2(2)	1(1)	1(1)	高経大		9(8)	9(9)	8(7)
京都大		6(4)	8(8)	3(2)					

第60回定期戦得点表

部対抗		種目	一般対抗	
高高校	前高		高高校	前高
対角線	対角線	水泳	9	0
		駅伝	6	3
		綱引き	6	3
		玉入れ	3	6
		ソフトボール	6	3
		卓球	4	5
		陸上競技	9	0
		ソフトテニス	6	3
		バレーボール	4	5
		バスケットボール	5	4
柔道	6	0	対角線	
剣道	0	6		
弓道	0	6		
空手道	0	6		
サッカー	6	0		
ラグビー	6	0		
硬式野球	0	6		
軟式野球	0	6		
硬式テニス	6	0		
小計	48	36		64
総合	112	高高校	前高	62

人事異動 (平成18年度)

退任者・転出者

教頭 飯塚 光 下仁田高 校長

国語 山口 和士 藤岡高(定) 教頭

数学 関口 理 中央中等

英語 森泉 孝行 群馬女子大外国語教育研究所

国語 濱野 雅樹 群馬県教育委員会

保健体育 清光 竜児 伊勢崎商業高

事務主任 小柳 真弓 藤岡中央高

理科(通信制) 中嶋 康弘 高崎経済大学附属高

地理(通信制) 櫻井 泰輔 市立前橋高

新任者

教頭 田中 勇一 松井田高 教頭

保健体育 境原 尚樹 榛名高

数学 新井 功 伊勢崎東高

国語 坂本 直之 太田女子高

国語 坂爪 誠 渋川女子高

英語 加藤 俊介 松井田高

地理歴史 森本 重利 群馬大学大学院卒

副主幹 星 正芳 勢多農林高

主任 小林 泰子 安中高

地理(通信制) 市原 明 伊勢崎商業高

理科(通信制) 鈴木 政勝 桐生工業高

高高同窓会 予算決算報告

費目	平成17年度予算	平成17年度実績	備考
前年度からの繰越金	382,073	382,073	
入会金	3,000,000	3,156,000	356人
維持会費	6,000,000	6,509,420	2,336人
利息	27	30	
雑収入	10,000	451,000	百年史会計より繰入ほか
合計	9,392,100	10,498,523	

費目	平成17年度予算	平成17年度実績	備考
会議費	1,000,000	963,072	理事会補助、新年総会準備金ほか
祝賀費	800,000	670,300	叙職記念、卒業丸筒ほか
経別費	300,000	220,000	16年度離任職員
慶弔費	200,000	104,055	葬儀供花代ほか
通信印刷費	500,000	253,815	維持会費納入礼状、電話代、郵送料ほか
旅費	100,000	60,000	東京同窓会出席者旅費
会報発送費	2,000,000	1,637,488	
同窓会報費	1,000,000	880,311	
事務費	1,500,000	1,349,091	事務職員人件費、事務用品ほか
同窓会長賞費	200,000	103,278	賞状、文館代
補助費	600,000	600,000	図書館、準体育会へ各30万円
環境整備費	500,000	240,450	指月庭維持管理費ほか
雑費	300,000	156,130	維持会費振込手数料、維持会費戻し
予備費	392,100	500,000	ヒューマンサイエンスクラスへの補助金
合計	9,392,100	7,737,990	

差引残高 2,760,533円 (特別会計積立 200万円 次年度繰越金760,533円)

部	前年度からの繰越金	平成16年度通常会計より	利息	合計
収入の部	13,215,303	2,000,000	1,812	15,217,115
支出の部	なし	なし	なし	なし
差引残高				15,217,115円

費目	平成18年度予算案	前年度予算	増△減	備考
前年度からの繰越金	760,533	382,073	378,460	
入会金	3,000,000	3,000,000	0	
維持会費	6,000,000	6,000,000	0	
利息	67	27	40	
雑収入	10,000	10,000	0	
合計	9,770,600	9,392,100	378,500	

費目	平成18年度予算案	前年度予算	増△減	備考
会議費	1,000,000	1,000,000	0	新年総会準備ほか
祝賀費	800,000	800,000	0	
経別費	300,000	300,000	0	
慶弔費	200,000	200,000	0	
通信印刷費	420,000	500,000	△80,000	
旅費	100,000	100,000	0	東京同窓会
会報発送費	2,000,000	2,000,000	0	
同窓会報費	1,000,000	1,000,000	0	
事務費	1,500,000	1,500,000	0	
同窓会長賞費	200,000	200,000	0	
補助費	1,100,000	600,000	500,000	環境整備費への増額
環境整備費	500,000	500,000	0	
雑費	300,000	300,000	0	
予備費	350,600	392,100	△41,500	
合計	9,770,600	9,392,100	378,500	

部	前年度からの繰越金	平成17年度通常会計より	利息	合計
収入の部	15,217,115	2,000,000	885	17,218,000
支出の部	なし	なし	なし	なし

第13回 高崎高校同窓会ゴルフ大会結果報告

第13回高崎高校ゴルフ大会が平成18年5月14日(日)伊香保ゴルフ倶楽部阿崎城コースにおいて開催されました。競技参加者227名と大勢のOB諸兄のご参加をいただき盛大に開催する事が出来ました。肌寒く、風もやや強い一日でしたが、参加者には公平に同じ条件でプレーして頂き、寒さを忘れる熱戦が展開されました。最高齢42期の山口秀夫先輩から最年少89期まで47年の年齢差がありながら、同じ土俵で戦えるというのもゴルフの大きな楽しみの一つであると感じました。ゴルフはマナーをもっとも重んじるスポーツですが、高々OB諸兄のすばらしいマナーと大会運営への寛容な眼差しに支えられ、幹事学年の不慣れな運営にも笑顔で最後までご協力頂き心より感謝申し上げます。結果は別表の通りですが、団体戦におけるグロス優勝の71期と87期はトータルで1打差でありましたし、ネット優勝の68期と80期も1.2ポイント差とこちらも接戦でありました。山口先輩の乾杯で始まったパーティーでも和気藹々OB諸兄の笑顔と楽しい飲談で包まれました。なお、チャリティーホールでは1オンした方にも多くのご協力をいただき、準体育会へ寄付させて頂きました。 [69期 片山 哲也]

順位	氏名	F9	B9	GROSS	HDCP	NET
優勝	丸山 巧一 (80期)	42	40	82	13.2	68.8
準優勝	南田 健志男 (88期)	42	39	81	12.0	68.0
第3位	北村 博一 (79期)	47	41	88	18.0	70.0
第4位	佐藤 真澄 (76期)	49	47	96	25.2	70.8
第5位	藤崎 裕 (54期)	43	40	83	12.0	71.0
ベストグロス		団体戦(期別対抗戦)				
71期・87期	武藤 誠一 75 (82期)	グロスの部 71期(321)				
80期・89期	橋爪 洋介 78 (86期)	グロスの部 80期(321)				
87期・89期	宮崎 享 77 (76期)	ネットの部 68期(288)				

第105回 高高同窓会新年総会のご案内

同窓生の皆様には、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。今回の新年総会は、私達76期が担当させていただきますこととなりました。心に残る新年総会になることを目標に、諸先輩のご指導、ご助言を仰ぎながら準備を進めております。懇親会も、楽しい会になるように企画の準備を進めておりますのでご期待ください。

同日の方々、先輩後輩の方々お誘い合わせのうえ一人でも多くの、同窓生の皆様のご出席を心よりお待ちしております。

期日 平成19年1月27日(土)
時間 午後3時より
場所 高崎ビューホテル
会費 5000円
(当番期76期代表 須郷 弘)

同窓の皆様の多大なるご協力をいただき、会報第40号が発刊できました。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。御多忙の中、貴重な原稿やお写真をお寄せくださいまして、まことにありがとうございます。 (本部幹事会)

○維持会費の納入について
平成19年度の維持会費の納入をお願いいたします。納入については、同封の振込取扱票(加入者名「群馬県立高崎高等学校同窓会」)もお使いいただけますが、ATMのご利用をお願いいたします。